

シノドスへの歩み みことばと共に 2021128-待降節第一主日 C年

小西広志

2021年11月30日

はじめに

東京教区の皆さん、こんにちは。教区シノドス担当者の小西広志神父です。今日、2021年11月28日は待降節第一主日です。今日から主日の朗読配分はC年となりますから、福音は『ルカによる福音書』が読まれます。今日の朗読の箇所をシノドスの教会のあり方と関連づけながら読んで、味わっていきましょう。

教会が再発見したすばらしいもの

この半世紀、教会にはいろいろな変化が生じました。この変化の中で、これまでは気がつかなかった、あるいはこれまで見過ごしてきたすばらしい点を教会は再発見していったのです。教会が再発見したものはたくさんありますが、ここでは三つの点を紹介しましょう。

沈黙する、待つ、歩む

「沈黙する」、「待つ」、「歩む」の三つです。まず、「沈黙する」ことの大切さを教会は取り戻しました。それまでは強いられてする「沈黙」だったと思います。しかし、典礼への積極的な参加の結果として、自ら進んで「沈黙する」ことの大切さを教会は体験したと思います。これについては、いつかお話しできればよいと考えています。続いて、「待つ」という行為に教会は注目できるようになりました。これは、神のことばである聖書を自国語で読めるようになった影響が大きいと思います。先週も「マラナ・タ」についてお話ししましたが、「待つ」ことがキリスト教の生き方や霊性の基礎にあるという事実を多くの方々は気づいていきました。そして最後に「歩む」です。信仰が「歩み」であるという理解は広まっていきました。特に社会と共にある「歩み」であるという意識は次第に深まっているように思います。こうして、教会はこの世界と対立する存在ではなく、世界と対話しながら、世界に寄り添いながら歩いていくのです。こういった考えを否定する人はもはやいないと思います。

シノドスは歩み

毎回、この動画はシノドス（世界代表司教会議）第16回通常総会のロゴマークで始まります。皆が一緒になって歩む姿は、教会の美しさの特徴をよく表していると思います。歩みの中でイエスさまとの交わりを皆で

深め、歩みの中で聖霊の助けに信頼して、そして天の御父の御手の中へと向かって歩むのです。

主は来られる

今日の三つの朗読には、先週お話ししました「マラナ・タ」、「主よ、来てください」のテーマが見られます。「約束を果たす日が来る」（エレ 33 章 14 節）と第一朗読で救いがやって来ることが語られています。「人の子が大いなる力と栄光を帯びて雲に乗って来る」（ルカ 21 章 27 節）と世の終わりの完成の時にキリストがいらっしゃることが福音朗読で示されています。「主イエスが、御自身に属するすべての聖なる者たちと共に来られるとき」（1 テサ 3 章 13 節）と第二朗読でも語られます。

歩みを続けてください

来られる主を待ちわびるのが待降節ですが、この待ちわびる間、わたしたちは何をしたらよいのでしょうか。第二朗読の一節に注目したいです。

さて、兄弟たち、主イエスに結ばれた者としてわたしたちは更に願い、また勧めます。あなたがたは、神に喜ばれるためにどのように歩むべきかを、わたしたちから学びました。そして、現にそのように歩んでいます。どうか、その歩みを今後も更に続けてください（1 テサ 4 章 1 節）。

待つとは何もしないでちんまりと座って待つのではないのです。やがて来られる方へ向かっての歩みなのです。

冒頭に申しあげましたように信仰は「歩み」です。悟りや安心といった「状態」が信仰とは言い難いです。

お一人おひとりの人生の歩みあるでしょう。家庭の歩みもあります。会社の歩みもあります。信仰の共同体の歩み、小教区共同体の歩みもあります。ひいては地域の歩み、社会の歩みがあります。そして、世界の歩みや人類の歩みもあります。わたしたちは歩みの中で生きるのです。歩みの中で父なる神さまの姿に触れるのです。歩みを導くのは主イエス・キリストです。「わたしに従いなさい」と言われたからです。そして、一歩一歩の足の運びを力づけるのは聖霊です。

どこに向かって歩むのかは、なかなか実感がわきません。時には歩みの行き先を誤ることもあります。それでも、三位一体の神さまに支えられながら信仰の歩み続けるのです。マリアさまはこの歩みの道しるべです。かつて旅人たちが北極星を見つめながら歩いたように、わたしたちもマリアさまを見つめながら歩むのです。だいたい疲れてしまいましたが、これが海の星聖マリアの信心です。

「どうか、その歩みを今後も更に続けてください」（1 テサ 4 章 1 節）は、わたしたちの人生を励ます言葉にわたしには聞こえます。

まとめ

この信仰の歩みは、一人でするものではない。皆と一緒に助けあいながらする歩みなのだと思います。教会は父なる神さまへの歩みをする人々の集いと言えるでしょう。主イエス・キリストは来られる方です。その方へと向かって歩むとき、道の途上でイエスさまとの出会いが生じるのではないのでしょうか。歩みを続けられますようにと、祈り求めてまいりましょう。

それでは、また来週